

令和5年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・言葉に対する関心は全体的に高いが、促音や長音などを正確に書き表すことができない児童が見られる。 ・助詞の「は・を・へ」を適切に使えていない児童もいる。 ・平仮名と片仮名の使い分けに、課題がある児童がいる。 ・音読言葉のまとまりではなく、一音一音ずつ読み上げてしまう児童がいる。	・促音や長音、助詞など、または平仮名と片仮名の使い分けに関して、練習プリントを朝学習の時間で解いたり言葉や文を書く学習をしたりする中で、正しい使い方を指導する。 ・学級の中で、音読の時間を確保し、練習する。		
算数	・「数と計算」において児童による習熟の差があり、苦手意識のある児童への動機づけや学習内容の習得において課題がある。 ・文章問題の問題場面をイメージすることができず、立式することに課題がある児童がいる。	・児童一人一人のつまづきに合わせて、具体物や半具体物を活用し、繰り返しの練習を行う。10の合成と分解・数のまとまりを意識させるために、百玉そろばんを活用し、徐々に具体物を使わずに計算できるようにする。 ・1年間で学習する内容についてスモールステップで取り組める学習シートを作成し、意欲的に取り組みながら、全員が目標を達成できるようにする。 ・具体物の操作活動や、問題場面の絵を描かせ、問題場面を具体的に理解させる。個人作業だけでなく、ペアや、全体で共有する活動も行う。		
生活	・さまざまな体験や活動は意欲的に行う。しかし自己の気づきに結びつかない児童が多い。 ・気付いたことを言語化することに課題がある。	・活動後の表現の際、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの視点を与え、自らの気づきを振り返ることができるようにする。 ・観察カードの記入等で自分の気づきを意識させる。 ・気づきの視点を与えた上で、気付いたことをどう言語化するのか手本を提示する。		
音楽	・拍の流れを感じ取って、リズム打ちや、身体表現をすることが難しい児童がいる。 ・曲想を感じ取って、自分を表現することへの苦手意識の強い児童がいる。	・リズム譜のやさしいところから、順に個別指導を繰り返ししていくことで、拍感を感じとれるようにしていく。 ・全体から個へ、個から全体へ、身体表現する場面を繰り返し行い、苦手意識を無くす。		
図画工作	・材料や用具の扱い方に十分に慣れる必要がある。 ・発想や構想に支援が必要な児童がいる。	・材料や用具の基本的な使い方の指導を繰り返し行い、感覚や技能を働かせる活動を通して材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。 ・活動の予告や児童の興味関心に合わせた題材設定を行うことで、発想や構想を促す。		
体育	・運動に苦手意識を持っている児童がいる。 ・走る、投げるといった基本動作や柔軟性などの基礎・基本的な動きに個人差がある。	・様々な動きを取り入れた体づくり運動（サーキット・縄跳び・持久走など）に取り組む中で、運動技能や体力の向上を図り、運動する楽しさを味わわせる。 ・授業中だけでなく、休み時間も使って幅広い運動・遊びに取り組みせ、できる活動を増やして自信につなげていく。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない
で、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・相手意識をもって相手に正しく伝えることに課題がある。言葉が不十分だったり長文になったりする。 ・文章を書く意欲や技能について個人差がある。特に、順序立てて分かりやすく文章を書くことが難しい。 ・長文や複数の文になると、問いに対して正しく読み取れない児童がいる。	・発表やスピーチ、作文や日記等、話したり書いたりする経験を積み、慣れるようにする。 ・話す活動では、相手や目的を明確にした上で、話し方と聞き方のポイントを継続的に指導し、定着を図る。 ・書く場面では、組み立てやつなぎ言葉、句読点や鉤括弧など、学習した書き方を意識させる。 ・説明文や物語文の指導では、身に付けたい力を明確にして指導を充実する。		
算数	・たし算の繰り上がりやひき算の繰り下がり計算について習熟に差がある。 ・既習事項を活用して答えを導き出す問題解決の力に差がある。	・朝学習で基礎的な計算問題に取り組み、計算力の習熟及び向上を図る。 ・問題解決学習を進める際には、具体的な手立てや方法（言葉や文章、式、絵や図、グラフや表など）を例示し、問題解決を図る方法を知る機会をつくっていく。		
生活	・体験や活動に意欲的に取り組んでいるが、気付きの視点や表現力に差がある。	・観察の前には「大きさ・長さ・形・匂い・手ざわり」など視点を与え、観察カード等に具体的に表現することができるようにする。 ・「比べること」や「例えること」ができるように、活動前にやり方を示し、焦点化や言語化へつなげる。		
音楽	・第1学年の時の積み重ねにより、多くの児童が歌ったり演奏したりする表現力が高まっているが、技能面で差が出てき始めている。	・全体の中で音楽を楽しむ時間を多く共有し、個別指導も取り入れながら授業の工夫をしていく。		
図画工作	・活動に意欲的な児童が多いが、材料や用具の基本的な扱い方について確認し、十分に慣れる必要がある。 ・発想や構想に支援が必要な児童がいる。	・材料や用具の基本的な使い方について繰り返し指導するとともに、感覚や技能を働かせる活動を通して、材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。 ・活動の予告、児童の興味関心に合わせた題材設定、提示する例や発問の工夫を行うことで、発想や構想を促す。		
体育	・運動が好きな児童が多い反面、運動することに対して苦手意識のある児童がいる。 ・基本的な動き（コース内を真っ直ぐ走る・ボールを真っ直ぐ投げる・単縄跳び・前回り・逆上がり・後転・けのびなど）や体力面に課題がある児童がいる。	・様々な動きを取り入れた体づくり運動（サーキット・縄跳び・持久走など）を帯の時間を設けて取り組む中で、運動技能や体力の向上を図り、運動する楽しさを味わわせる。 ・休み時間や放課後などにも運動に取り組み、家庭の協力も仰ぎながら運動の日常化を促す。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・言語において、漢字の書き取りに課題がある。漢字小テストでは全体的に点数が取れる子が多いものの、まとめのテストになると個人差が大きくなる。また、学習した漢字を日常生活の中で適切に使うことにも課題がある。 ・書くことにおいて個人差が大きく、伝えたいことを順序立てて文章に書き表すことに課題がある。 ・話すことにおいて、自分の思いを相手に分かりやすく伝えることに課題がある。また、話し合いにおいて、自分の意見を発表したり、友達の意見から自分の見方や考え方を広げて、学びを調整したりしていくことに課題がある。	・毎週金曜日に漢字テストを実施することとし、1 週間の漢字学習を習慣化することで、新出漢字の定着を図る。 ・例文を示したり、よく書けている文章を真似して書かせたり、つなぎ言葉を選択したりするなど、個の課題に合わせた手立てを行う。 ・ペアや小集団での話し合いの場を設け、安心して自分の意見を言えるようにする。 ・友達の意見を聞く前と聞いた後で、考えたことの変化を書かせるようにする。		
算数	・課題解決の際、自分の考えをノートに書き出せなかったり、まとめられなかったりする児童がいる。 ・時刻と時間では、問題文の読み取りができず、間違えた回答をしている児童が見られる。 ・三桁のたし算とひき算では、全体指導のときに解けた問題も、自力解決になると繰り上がりや繰り下がりでミスをする児童が多い。	・具体物を使ったり、計算の仕方や大事な言葉等は単元を通して黒板に掲示したりすることで既習事項を思い出させ、考えるきっかけを与えるようにする。 ・習熟度別での指導を生かし、コースに応じて数値を変更したり、計算の順序を確かめたりして指導する。 ・文章題では、使う数字や聞かれていることを確認してから問題に取り組むことを年間通して指導していく。		
理科	・昆虫や植物に興味をもっており、観察でも意欲的に取り組む児童が多いが、観察カードに気付いたことや自分の考えを適切に表現できない児童が見られる。 ・知識を問うテストになると、何を問われているのかを理解できない児童やどのように回答するべきなのかの理解が難しい児童が見られる。 ・学習した知識・技能を生活経験と結び付けて考える力に課題がある。	・観察の際に具体的な観察の観点を提示し、観察するようにさせる。 ・授業の中で友達と観察カードの内容や自分の考えを共有する時間を取り、様々な表現方法や意見に触れ、自分の考えを広げられるようにする。 ・他教科においても、理科で学習した内容を生かした学びが行えるように、関連した学習内容を設定し、児童が主体的に知識と生活経験を結び付けて考え、それを表現できるようにする。		
社会	・資料から情報を正しく取り出したり、取り出した情報を比較・関連付けたりすることが難しい。 ・地図記号や八方位等の知識が定着しきれていないため、地図を読むことが難しい児童も少なくない。 ・生活経験と結び付けながら思考することに課題がある。	・教科書等を使い、地図や写真から必要な事柄を読み取るなどの活動をする時間を増やす。 ・比較・関連付けをする時には、「似ているところ」「違うところ」など、注目するべき点を提示し、学習に取り組めるようにしていく。 ・写真の提示や生活科の経験を思い出させることで、自分のこれまでの経験や学習内容と結び付けて主体的に考えられるようにする。		
音楽	・息づかいや運指など、音や音楽と関連する身体の使い方を調節することができず、技能が身に付かない。 ・音の高さの変化や呼びかけとこたえなどの音や音楽に対する音楽的要素や仕組みに気付くことができない。 ・演奏練習において、計画的に先を見通す力が十分でなく、自己の課題を把握したり、方法を工夫したりして達成することに課題がある。	・身体の使い方と音や音楽の関連をより細かく明らかにしながら学習を進める。 ・音や音楽に対して関心をもつ場面を増やし、音楽的要素や仕組みに耳を傾けられるようにしていく。 ・学習活動の説明をする際に見通しをもてるよう、流れの説明、細かく段階を分けた説明、視覚的な資料とともに進めていく。		
図画工作	・材料や用具の基本的な扱い方について確認し、十分に慣れる必要がある。 ・自らの活動を言語化して学びにつなげることに課題がある。	・材料や用具の基本的な使い方の指導を繰り返し行うとともに、感覚や技能を働かせる活動を通して、材料や用具の扱い方に十分慣れるように活動内容を設定する。 ・学齢に合わせた造形的な視点の言葉を提示し、自分の活動や鑑賞した内容を言語化しやすくする。		

令和5年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

体育	・個人の運動は一人一人がよくがんばるが、グループ競技になると、得意な児童だけが活躍してしまうことがある。 ・自分の課題を解決しようとする意欲が低い。 ・勝ち負けにこだわりすぎて失敗してしまった子を責めすぎてしまう。	・チームで取り組む競技を多く取り入れ、チーム内での役割分担や作戦を練る時間を設ける。 ・ICTを活用し、自分の課題を可視化することで、意欲を高めたり、友達と高め合ったりしようとする場面を多く設ける。 ・児童間で互いにどのような役割分担をすればチーム全体が活気づいて、その競技の内容をレベルアップできるのかを主体的に考えるような発問をしたり、場を設定したりする。		
-----------	---	--	--	--

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・自分の考えや思いを言葉で伝えたり、文章で表現したりすることに課題がある。 ・漢字の学習において小テストではよい結果であっても、まとめのテストになると個人差が大きく、定着していない児童が多い。 ・要約して文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多い。	・小集団での話し合い活動を授業の中で設定し、自分の考えを話すことに慣れさせる。また、友達の書いた文章に触れる機会を多く設け、書き表し方を学べるようにする。 ・新出漢字の学習後に、生活の中で生かせる漢字練習に取り組み、日記、ノートなどで文章を書く際には、既習の漢字を使うことを繰り返し指導する。 ・作品の重要な箇所を見つけて印をつけさせたり、例文を用いて書く部分をつなげる工夫を示したりする。苦手意識の強い児童には、教科書の文章より短い範囲に指定したり、要約の文字数を少なくしたりする。		
算数	・億や兆までの数を読んだり書いたりすることに課題が見られる児童が多い。 ・コンパスや分度器、定規を上手く使えず、正確に作図できない児童が多い。 ・桁数の多いわり算の筆算ができない児童が多い。 ・問題の多様な解き方を考えて、表現することを苦手としている児童が多い。	・4桁の区切りのよさを理解させて、家庭学習でも繰り返し取り組めるように復習を行う。 ・コンパスや分度器、定規に慣れるように、日々の学習の中で日常的に使わせる。 ・学期のまとめの学習の際、その学期で学習した計算や、筆算を中心に復習する機会を設定する。 ・問題の解き方の表現の仕方（図、絵、文章、数直線など）を教えて、児童同士の考えを共有し合い、それぞれ自分に合った方法で表現できるようにする。		
理科	・観察に意欲的に取り組むが、観察するポイントに沿って記録ができない児童が少なくない。 ・授業で知識を得ていても、単元テストになると文面から問われている内容の理解ができず、回答できない児童がいる。 ・活動には意欲的だが、予想を立てて目的意識をもって取り組むことが難しい。	・観察の際に具体的な観察の観点を毎回提示し、観察するようにさせたり、ワークシートに観察の観点を記載したりしておく。 ・授業の中で、適宜、重要な文言を押さえながら学習をしたり、単元テストの振り返りを丁寧に行ったりする。 ・学習の最後に分かったことや疑問に思ったこと、次の学習の予想などを考えて書いてまとめることを習慣にする。		
社会	・資料を正確に読み取って問題に答えたり、疑問や問いを導き出したりすることが難しい児童が多い。 ・まとめの学習において、社会科見学等、パンフレットや各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べ、よりよくまとめることが難しい児童がいる。 ・学習したことを生活に活かそうとする児童は多くいるが、具体的な生活の工夫についてまとめられる児童が少なかった。	・折れ線グラフと棒グラフなど、複数のグラフが混在している資料などの読み取り方を丁寧に確認したり、必要な情報を読み取ったりする時間を設ける。 ・学習のまとめで、ノートの見開き2ページにまとめをしたり、国語で学習した新聞を活用したまとめをしたりするを通して、書いてまとめることを習慣にしていく。		
音楽	・音や音楽に対して、音楽的要素や仕組みなどの根拠を明らかにしながら考えることに課題がある。 ・学級全体での音楽経験が少なく、音楽活動において協働する力が十分でない。	・音楽的要素や仕組みを知覚し、その働きから音楽のよさや面白さを感じ取る流れをパターン化して考える機会を積んでいく。 ・クラス全体での活動機会を今後増やしていく。		
図画工作	・自らの活動を言語化して学びにつなげることに課題がある。 ・学びに向かう力と創造的な技能について、個別の支援が必要な児童が見られる。	・学齢に合わせた造形的な視点の言葉を提示し、自分の活動や鑑賞した内容を言語化しやすくする。 ・支援が必要な児童に対して、個別で具体的な指示を出し、スムーズに取り組めるようにする。		
体育	・個人による運動量、練習量に差がある。 ・技のポイントを意識して練習に取り組むことのできる児童が少ない。	・1時間の中に帯の5分間の運動時間を設けて、縄跳び、鉄棒、持久走などの練習時間をとる。 ・技のコツが理解できるよう、技のテクニカルポイントを確認したり、タブレットを活用して自分の運動の様子を確認したりしながら練習に取り組む。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・日常生活に必要な国語の知識や語彙力が満足に定着していない。 ・筋道を立てて考えたり表現したりすることができず、適切に交流することができない。 ・進んで読書をしたり学習したことを日常生活に活用したりする態度が見られない。	・言語の学習ではそれらを使用する具体的な状況を指導し、言葉の特質を理解できるようにする。 ・読むことや書くことの学習では活動内容を明らかにし、児童が筋道を立てる過程を指導する。 ・言葉による見方や考え方を指導することで、言葉のもつよさを認識できるようにする。		
算数	・問題文を正しく読み取ることができないため、正しく立式することができない。 ・公式を暗記するだけになってしまい、そこに至るまでの筋道を考えることができない。 ・多様な解き方を考えたり表現したりすることを苦手とする児童が多い。	・課題把握の時間では図や表、数直線を使用しながら問題場面を正しく理解させる。 ・図や表、数直線を使用しながら公式に至るまでの筋道を指導し、意味理解の定着を図る。 ・見通しをもたせ、正しく表現することで多様な考えをもつよさを実感できるようにする。		
理科	・観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や適切な実験器具の使い方を理解しているものの、実際に器具を使う際、誤った使い方をしてしまうことがある。 ・条件制御して実験方法を考えることができる。しかし、実験結果と条件を結び付けて考え、考察することに課題がある。	・観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。 ・課題→予想→結果→考察→まとめの流れをパターン化させ、条件を意識して実験結果を整理させるとともに、課題に着目させて考察することに慣れさせていく。		
社会	・社会科に必要な情報を適切に調べることができない。 ・情報を適切にまとめたり伝えたりすることができない。 ・社会的な事象を一面的にしかとらえることができず、考えを広げることができない。	・情報源を紹介したり限定したりすることにより、適切な資料で調べ学習に臨めるようにする。 ・ICT機器を活用し、情報を表現するのに適切な方法を提供する。 ・様々な立場から社会的な事象を指導し、物事を多面的に考えられるようにする。		
音楽	・音や音楽に対して、音楽的要素や仕組みなどの根拠を明らかにしながら考えることに課題がある。特に、個人で考えをもつのが難しく、誰か一人の考えに頼りすぎる場面がよくある。 ・少人数グループ活動の経験が少なく、音楽活動において協働する力が十分でない。	・音楽的要素や仕組みを知覚し、その働きから音楽のよさや面白さを感じ取る流れをパターン化して、考える機会を積んでいく。 ・少人数グループでの活動機会を今後増やしていく。		
図画工作	・自らの活動を言語化して学びにつなげることに課題がある。 ・学習に向かう力について、個別の支援が必要な児童が見られる。	・学齢に合わせた造形的な視点の言葉を提示し、自分の活動や鑑賞した内容を言語化しやすくする。 ・児童の興味関心に沿った活動を設定したり、活動途中に、お互いの良いところを伝え合ったりするなどして、学びの意欲の向上につなげる。		
家庭	・技能や作品作りの進度に大きな差があり、計画的に終わらせることができない児童が多い。 ・学習内容を振り返ったり、課題を見つけたりしたことを文章に表現することが難しい。	・作品作りの計画を視覚的に示したり、見本を手にとれる形で用意したりして、わかりやすく提示する。 ・鑑賞の時間や全体での振り返りの時間を多く設け、様々な表現の仕方を伝えていく。		
体育	・領域に応じた技能の特性を理解できず、習得に必要な方法を考えることができない。 ・自己を適切に振り返ることができないため、目的に応じて活動を工夫することができない。 ・体育科の活動と健康・安全が繋がらず、普段の生活に生かすことができていない。	・領域に応じた技能習得の場を設定し、それぞれに適した練習内容を選択できるようにする。 ・ICT機器を活用し、活動内容を動画で撮影しながら自己を客観的に振り返られるようにする。 ・休み時間の遊びと関連付けながら、体育科の活動が普段の生活に生かせるようにする。		
外国語	・既習事項を複合的に使用して自分の気持ちや考えを表現することができない。 ・外国語による表現に抵抗があり、自分の考えを積極的に表現することができない。 ・四線を使って書くことに慣れていないため、正しく書くことができない。	・ユニットごとの学習に加えて、それまでの既習事項を踏まえた交流の仕方を指導する。 ・児童の実態を踏まえながら活動内容やグループを適切に設定し、話しやすい場を作る。 ・ワークシートを使用し、交流したことを書く学習を増やしていく。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・序論、本論、結論といった文章全体の構成を考えることはできているが、目的や意図に応じた分かりやすい文章を書くことには課題が見られる。 ・また、文章のまとまりごとに段落を分けて整理することや、接続語を正しく用いて筋道の通った文章を書くことにも課題がある。 ・説明文や物語文の読み取りでは、内容を把握し、知識や経験と結び付けて読むことはできてきているが、文章全体の構成を捉え、要旨や筆者の主張を把握して読み、自分の考えを表現することには課題がある。	・書くことの学習では目的や意図に応じて書いたり、事実と感想、意見などを区別して書いたりすることを指導する。また、内容の中心を明確にすることで文章のまとまりを明らかにし、筋道の通った文章になるように指導する。 ・説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。		
算数	・問題文の意味を理解し、正しく立式することに課題のある児童が多く、特にわり算ではわられる数とわる数が反対になる。 ・公式だけを覚えているため、時間が経つと公式を忘れたり、他の公式と混同したりしてしまい、公式の意味理解まで至っていない。 ・課題に対して、多様な考え方のできる児童が少なく、表現することが苦手な児童が多い。	・数字の意味、数と数の関係を図や表、数直線等で表すことを指導し、問題文と式を関連付けて数の関係を捉える活動を繰り返す。 ・公式をつくる過程を大切にし、順序立てて考え、答えを導けるようにし、理解の定着を図る。 ・式や表や図、言葉等の様々な表現方法から自分に合った表現方法を選択し、お互いに発表し合い、考えの共有を図る。		
理科	・観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や適切な実験器具の使い方が十分に身に付いていない傾向がある。 ・実験の結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりすることはできるが、実験結果から数値や実験の様子などの根拠を明らかにしながら考察、推論することには課題がある。	・観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について教科書やプリントを使って共通理解する時間を確保する。 ・実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。また、タブレットを活用し、実験結果を共有できるようにする。		
社会	・政治の仕組みや日本国憲法の理念などについての知識・技能の取得率は高い。一方で、抽象的かつ生活と結び付けにくい内容であるため、問題に対し、自分なりの考えをまとめたり、友達の考えから自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。	・社会的な事象を政治に関わる視点に着目して捉え、国民の生活との関連付けを考えることで、学習を深めることができるようにする。 ・授業の中で、一つの資料から読み取っていくだけではなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。また、少人数や全体で検討し共有していく活動も重視していく。		
音楽	・音や音楽と身体の使い方を関連付けて適した奏法を考えることに課題がある。 ・演奏練習において、計画的に先を見通す力が十分でなく、自己の課題を把握したり、方法を工夫したりして達成することにやや課題がある。 ・学習したことを日常生活に活用する場面が見られない。同様に、日常生活での経験を、学習活動に活用する場面も少ない。	・身体の使い方と音や音楽の関連をより細かく明らかにしながら学習を進める。 ・音や音楽に対して関心をもつ場面を増やし、音楽的要素や仕組みに耳を傾けられるようにしていく。 ・個人で活動する場面で、声かけの機会を増やし、課題の把握や方法の工夫や改善につなげていく。 ・学習を生活経験に活用できる場面、生活経験を学習に活用できる場面について触れる機会を増やしていく。		
図画工作	・自らの活動を言語化して学びにつなげることに課題がある。 ・学習に向かう力について、個別の支援が必要な児童が見られる。	・学齢に合わせた造形的な視点の言葉を提示し、自分の活動や鑑賞した内容を言語化しやすくする。 ・児童の興味関心に沿った活動を設定したり、活動途中に、お互いの良いところを伝え合ったりするなどして、学びの意欲の向上につなげる。		
家庭	・調理や裁縫以外の家庭科学習に対する興味が薄く、主体的に取り組めない児童が見られる。 ・技能の個人差が大きく、作品作りが難しい。	・体験的な活動を多く取り入れることで意欲を高める。また、その活動後に振り返りを行うことで、学習の内容を生活に生かせるものとする。 ・作品作りの見通しが立つように、計画を示す。また、手本を多く用意して、参考にしながら作品作りができるようにする。		

令和5年度 府中市立府中第四小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

体育	・活動を工夫し、運動の楽しさを味わうとともに、基本的な技能を身に付けさせる。 ・運動に進んで取り組み、友達と助け合って技の練習をする。 ・自己の能力に適した課題の解決の仕方や自分のチームの特性に合わせた作戦を考えたりすることができるようにする。	・場や方法を工夫し、自分の能力に合った練習を行うことにより、運動する楽しさを味わうとともに技能を高める。 ・友達同士で技を見合い、ポイントを言葉で伝える活動を意図的に入れる。 ・ボール運動では、チームタイムを設定し、友達と話し合いながら作戦を立てたり、修正したりする活動を取り入れる。		
外国語	・様々な単語、センテンスを理解している児童もいれば、アルファベットの理解をままたらない児童がいるなど、習熟度に差がある。また、文字と音声不一致のため、センテンスを示しても読み取ることができず、片仮名英語になってしまう児童が多い。	・チャンツやゲーム、歌等を積極的に活用し、ALTや友達と関わる活動を取り入れる。さらに、外国の文化と日本の文化との違いや共通点等を考えさせることで、他国との違いや良さを感じさせる。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。